

HOPE パートナープログラム (患者里親制度)

タイ北部の田舎に住む人達や山岳民族などの貧しい家庭には、エイズ、心臓病、喘息、糖尿病、脳性麻痺等の慢性病を患っている子供が多くなりますが、彼らには政府の援助の手が届かず、子供の発育に大事な保健・衛生の知識を身に付ける機会もありません。

このため、これらの病気の子供を日本のパートナー会員が経済的、精神的に支援する「HOPEパートナープログラム(患者里親制度)」を1998年にスタートしました。

このプログラムでは、パートナー会員の方に、子供の医療費等として月3000円を寄付していただく代わりに、現地スタッフが毎月子供や医師に面談し、健康・生活状況に関するレポートを作成・報告します。更に、パートナー会員と子供間の手紙の交換で、お互いの生活、趣味等について理解を深めることなども行われています。

このプログラムがスタートして以来、8年間で165人の子供の治療を支援した結果、78人の子供は支援が必要無いまでに健康が快復し、無事に卒業しました。引き

続き80人弱の子供が支援を受けています。

現在60人のパートナー会員と米国の財団から支援を受け、タイ北部のチェンマイとチェンライ県にある5つの病院と協力してプログラムを推進しています。

このプログラムでは、子供の支援に留まらず、子供と保護者に対する健康教育学習会を開催したり、貧しい家庭の経済的な自立支援もしています。

一人でも多くの子供を救ってあげたく、ご支援いただける方を探しています。

皆さまの温かいご支援をお待ちしております。



患者の子供とその家族

巻頭言 / 製薬企業の国際貢献活動



ピープルズ・ホープ・ジャパン理事
森田 清

第一三共株式会社 会長
日本製薬団体連合会 会長

ピープルズ・ホープ・ジャパン(PHJ)が昨年創立10周年を迎えられましたことを、お慶び申し上げます。

日本製薬団体連合会(日薬連)はPHJ設立当初から、歴代日薬連会長が理事として活動に参画させていただいており、私で5人目となります。日薬連としては製薬企業の国際貢献活動の一環として、途上国の医療支援を任務とする国際NGOであるPHJを支援させていただいております。

今まで数度に亘り支援申し上げておりますが、タイ小児心臓病患者の手術支援では160名の子供さんの命を救うことができたことなど、皆様のご苦勞の成果を実感でき大変うれしく思っております。

PHJは医療支援に当って「教育を中心とした自立化支援」を基本的な方針として掲げています。

先ほどのタイ小児心臓病患者手術の支援においては、単

に医師を派遣して手術を行うだけではなく、医師・看護師の育成も行うという形が取られています。タイにおける小児心臓手術技術の普及・向上に注力されたことは、現地の方々への何よりの贈り物ではないかと考えます。

また、昨年支援申し上げた「インドネシア肝炎対策事業」においては、「肝炎検査の普及による早期発見」と同時に、日本の高い医療診断技術を移転して「肝臓病患者を未然に防ぐ防止体制の確立」を目指しており、タイと同様、現地での教育支援成果が高く見込まれるものと期待しております。間もなく事業が開始されると聞き、今後を楽しみにしております。

最後となりましたが、日薬連といたしましては、今後も可能な限り支援させていただき、友好的な協力関係を継続いたしたいと考えています。

PHJ並びにPHJで活動されている皆様方におかれましては、認定NPO法人第一号としての高い自覚と共に、アジア途上国における医療支援活動を一層充実し、それぞれの国で生活している人々の健康・医療環境が少しでも改善され、一人でも多くの笑顔に接することができるよう、さらにご尽力されることを期待いたします。

カンボジア報告

2月カンボジアに出張し、カンボジア事務所スタッフと事業経緯や現状、今後の展望の共有を目指しました。具体的には、テクニカルアドバイザーの岡本氏の協力を得て、上半期事業評価を中心に、2001年からのPHJカンボジア活動経緯レビュー、新規事業立ち上げに向けた計画作りをワークショップ形式で行いました。

事業では、診療所が適切な母子保健サービスを提供できることを目指しています。モニタリング記録はもとより、診療所や村人とのインタビューを基に、カンボジア事務所スタッフと評価活動を行いました結果、概ね目標



上半期事業評価



月別活動表作成

指標に達していることを確認しました。

今年度で現在の3年事業は終了となります。

今後については、診療所を中心に村のヘルスボランティアや産婆さんといった村人が協力して、自らの努力で継続的に母子保健サービスを提供できるようPHJは側面支援を行います。新規事業については、これまでの経験を活かし、カンボジアでニーズの高い母子保健事業を計画しています。また、プレイベン州で好評の助産トレーニング事業は継続します。今後とも皆様のご支援宜しくお願いいたします。

ちょっといい話? —インドネシアから—

インドネシアで活動を開始してから今日までの約10年間、経済危機・暴動・テロ・災害・腐敗政治など耳をふさぎたくなるような話題が多々あります。そんなインドネシアで私が活動を実施し、生活してこられたのは、現地の人々の支えがあったからだと思っています。

表面的にはPHJが支援者の立場で、インドネシアの人々が受益者です。しかし活動の場面以外で、しばしば私は彼らに助けられながら今日に至ったのは事実です。

ある日、体調がすぐれないで現地に行った時のことです。帰り際に診療所の人に袋を渡されました。「これ何?」と聞くと「ウナギのペベスよ。栄養があるから…。早く元気になってね。」とお土産です。ペベスというのはインドネシア料理の1つで、色々なものをバナナの皮で包んで蒸したり・焼いたりした料理です。

またある時は、「疲れてるでしょ?これ、高蛋白だよ。」とテンペ*クラッカーを持たせてくれたり、といった具合です。

* (インドネシア特産の乾燥納豆)



豆腐ペベス

栄養改善活動を実施している私が、一緒に活動をしている現地の人々に「健康」に気を使ってもらい、こんなに親切にしてもらっているのかしら…と思いつつも、非常に

嬉しい気持ちでいっぱいになり、元気を貰いました。

「先進国・後進国」「金持ち・貧困」などには関係なく、私たち人間が生活していく上で「持ちつ持たれつ (Give and Take)」は大切に、1人では決して生きていけないということを再度教えてもらっている気がします。このような気持ちになれるのも、インドネシアで活動実施担当とさせてもらっているからです。これからも人間関係を大切に、少しでも良い活動を展開していきたいと思っています。

(伊藤)



村長宅でいつも親切な診療所の人たちと楽しく雑談

(NO39号 リラさん 歯科衛生士→歯科医師) 訂正お詫びします

タイ事務所の近況

今年1月に日本のドナーの皆さまから頂いた教育玩具が、タイ事務所に届きました。小型の玩具は、HOPEパートナーの子どもさんの誕生日にプレゼントとすることにしました。また大型の玩具は、スリサンワン病院とサンサイ病院に設置しました。子どもたちは組み立てが待ちきれない様子で、大変楽しく遊んでいます。ありがとうございました。

写真左の女性はHOPEパートナープログラムマネージャーのチャクビダさんで、6月に出産予定です。今年、タイ事務所では出産のおめでたが続きます。



スリサンワン病院に寄贈したおもちゃとHOPEパートナー

小児先天性心臓病手術プログラムでは、1998年からの手術支援累計が186人になりました。今年は6月までさらに45人支援する計画です。皆さまの特別なご支援によって多くの子どもの命を救うことが出来ました。



手術を受け元気になったパラタコルンちゃん

このプログラムでは子どもの心臓手術だけでなく、医師・看護師からなる手術チームの育成と子供の先天性心臓病患者を専門にケアする看護師57人の育成もしています。治療技術は確実に向上しています。

そのほかのHIV/AIDSピア教育活動・子宮頸がん予防教育活動も着実に成果を挙げています。

引き続き皆さまの暖かいご支援をお願いいたします。

投稿

定年を記念してカンボジアに小学校を寄贈

60イカス会：小木曾 裕

私達は定年を記念して、入社同期の有志でカンボジアに小学校を寄贈しました。学校名は「Yokogawa Rokumar-kai School」です。毎年訪問し先生・生徒達と心の交流を行っているとともに教育に必要な民話の絵本・ノート・ボールペン等の教材や本棚・校門の建設等の支援も行っております。

学校は2003年10月に、コンポントム州都から18キロ離れた農村に完成しました。ここは、電気も電話も無く、学校との連絡はPHJコンポントム駐在の中田所長さんと現地スタッフをお願いして交流・支援が実現しております。PHJは医療教育支援を私達は学校教育支援を、共にコンポントムで協力して取り組んでいます。

完成翌年の1月に有志16名で訪問し、開校式を兼ねた学校贈呈式と、子供達との交流を行い、今年も1月早々11名で訪問して、子供達の目の輝きと笑顔に元気をもたらしてきました。4回目となりお互いの信頼関係が



皆さん!! こんにちは

芽生えてきたようで、我々にどんどん近寄って来てくれました。

今回も昨年評判が良かったカレーライスと一緒に作り、先生・村長さんを交えて皆で食べ、低学年と一緒に紙

飛行機・折り紙・バレーボールなどで遊び、両国の童謡を歌い、「おはよう・さよなら・ありがとう」などの日本語を教えました。また高学



この子供達に希望の光を!!

年50名は、卒業記念として近くの遺跡と一緒に見学して先祖の、偉大さを知ってもらいました。

子供達は教育を受けて将来は医者や弁護士に成りたいと夢を話してきます。しかし、家庭が貧しく十分な教育を受ける事が出来ずに暗い顔になります。私達は「教育は希望の光」と思い、今後とも資金の続く限り、毎年、交流、支援を続けたいと思っています。皆様方にもこの活動にご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、来年も1月に第5回目の訪問を計画していますので、ご希望の方の参加をお待ちしております。

(ご連絡はPHJまで)

応援メッセージ

60会の皆様の訪問を学校の生徒と先生が楽しみに待っています。継続的な心温まる支援は農村の子供たちの希望となっている事でしょう。私も応援しています。

(PHJ カンボジア中田)

会員のひろば



PHJと慶応大学SFCとのご縁

前田 恒夫(個人会員)

“縁とは異なるものである”という言葉がある。タイ所長の太谷さんに続き、PHJと慶応大学SFC(湘南藤沢キャンパス)とのご縁が広がりつつある。筆者は、日本HP在職時代からのご縁で、慶応大学SFCのキャリア・リソース・ラボの研究員を拝命しているが、その関係で、2004年から慶応大学SFCの非営利組織(NPO・NGO)インターンシッププログラムのインターン生の受入れをPHJにお願いしている。

その結果、2004年に2名(Oさん、Kさん)、2005年に1名(Nさん)、2006年に1名(K.Aさん)と、毎年、参加者が続いている。参加者からの評価の声は非常に高く、参加後の主な学びやフィードバックとして、①PHJの存在意義と働く人達のプロ意識の高さ、②支払対価分の価値提供の視点の重要性、③募金を左右するのは信頼関係、④NPOで働くことは究極の自己実現、等々、PHJでのインターンシップの意義とPHJへの感謝の気持ちがたくさん寄せられている。ちなみに、昨年度参加のK.Aさんの場合、インターンシップ参加

後、自らの研究の為、タイのPHTを訪れ、学びを深めたほど、大いに啓発された参加者もいる。この様な参加者からの高い評価の声が徐々に広がり、慶応大学SFCの中で、PHJの存在が認識され、注目され始めていることはたいへん喜ばしいことである。ちなみに、企業インターンシッププログラムが一般化しているなか、NPO・NGOのインターンシッププログラムを提供している大学は、慶応大学SFC以外にまだ見当たらない。一方、PHJにとって、繁忙期の8月にも拘らず、インターン生を受入れ、気づきや啓発の貴重な機会を提供頂いており、そのご尽力に対し、紙面を借りて厚くお礼を申し上げたい。それから、学生のキャリア選択肢の一つとして、PHJを始めとするNPO・NGOの就業機会が高まることを願う次第である。

また、インターンシップとは直接の関係がないものの、カンボジア所長の中田好美さんも慶応大学SFCご出身とのこと、この様なご縁の深さを実感すると共に、今後とも、このご縁を大切にしていきたいと思う今日この頃である。また、最近の社会的なダイバーシティプログラム支援ブームの流れの中、今回ご紹介の方々は、何れも女性で、あらためて女性の意識や潜在能力の高さを感じると同時に、今後の益々のご発展を期待したい。

2006年年末募金の報告と御礼

昨年の年末募金は総額4,234,945円となりました。

恒例のカレンダー募金、個人の皆様からのご献金、職場での募金袋など様々な形でご支援頂いた結果です。使途はカンボジアでの母子健康としており、具体的には同国コンポントム州の4診療所の助産師、産婆教育に使用させていただきます(年間対象妊産婦1900人)。

またコンポントム全州の、特に仮設小屋で出張活動する医療スタッフに対して蚊帳170張りを寄付することができました。現在、はしかの予防注射を行う時期にあります。僻地をまわるスタッフには例年マラリアが発生したり、睡眠不足による体調不良が出ております。お蔭様で今年は、良い条件で仕事ができると国立予防接種センターからお礼を頂きました。皆様の毎年のご支援に対し、一同心から御礼を申し上げます。

(大河内)

編集後記

晩秋の午後、PHJの事務所に一人のご婦人を迎えました。一ヶ月前にご主人を亡くされ、お香典の全額をPHJに寄付するために尋ねて来られました。ご主人は苦しい闘病生活を6年間続けてきました。健康な時は人一倍ボランティア活動に熱心で以前よりPHJの大口個人会員様でもありました。入院中も奥様に会費の支払いを心配され、ホームページもご夫婦でともに読まれておりました。奥様は開発途上国のアジアの子

供たちは十分な治療が受けられない状況をよくご存じで、ご主人の意思を尊重し、又、これまで大変お世話になった周りの皆様への感謝のお気持ちがPHJへのご寄付になりました。PHJは誠に有難くご厚志をお受けするとともに、謹んで故人のご冥福をお祈りし、奥様には今後も会員としてホームページをお届けすることに致しました。

高橋 以和夫